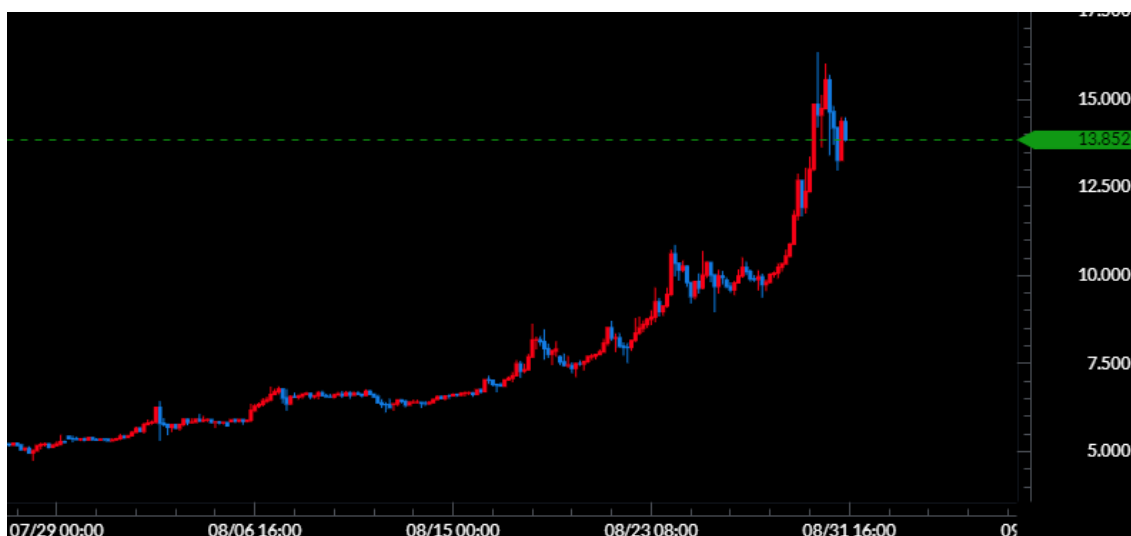


ファンダメンタルズによる暗号資産分析

2020.9.2

水曜日は、暗号資産のファンダメンタルズにフォーカスを当てて、価格変化の動向についてお伝えいたします。

① XRP 高騰に続き、XEM が 16 円突破！国内 3 倍の暗号資産誕生！？



XEMJPY4 時間足 当社取引ツールより作成

DMM Bitcoin 取り扱い暗号資産であるネム（XEM）が、8/30 に 16.343 円まで上昇し 1 か月で価格が 3 倍以上に高騰しました。その背景には、NEM グループが Symbol リリースに向けての具体的なプランを発表したことと、海外取引所でのステーキングサービスが開始されたことが大きな理由と考えられます。

NEM グループは 8/17 に、新ブロックチェーンである Symbol 立ち上げに関する最新情報を発表しました。開発は順調に進んでおり、Symbol メインネットローンチが 12/17 を予定しているとの内容でした。予定通り進めば新暗号資産である Symbol (XYM) 付与に関わるスナップショットが 12 月初期頃に実施されるようで、その期待から価格が上昇した可能性が考えられます。

また、一部の海外取引所では 8 月にネムのステーキングサービスを実施することを発表しました。ステーキングサービスとは、対象の暗号資産を一定量・一定期間保有しておくことで報酬が得られるサービスのことです。リスク (LSK) がステーキングサービスを実施した際は、60 円から 300 円まで高騰し 5 倍になった事例があることから、その期待上げがあ

った可能性があります。

一般社団法人日本暗号資産取引業協会（JVCEA）の開示情報によると、2020年4月時点で日本国内の暗号資産交換業者19社が顧客から預かっているネム（現物）の数量は約17億枚となっています。これはネムの総発行数量である約90億枚のおよそ19%が日本の暗号資産交換業者に預けられていることとなります。

ネム利用者 現物保有状況(月次)

更新日：2020年8月19日

数量＝各暗号資産における1通貨単位

金額＝百万円

年	月	ネム (XEM)	
		数量	金額
2020	4	1,681,427,602	7,461
2020	3	1,696,779,260	6,591
2020	2	1,616,933,169	8,681
2020	1	1,588,638,294	7,093
2019	12	1,530,873,131	5,205
2019	11	—	—

一般社団法人日本暗号資産取引業協会が公表している暗号資産取引月次データ (<https://jvcea.or.jp/about/statistics/>) の「XRP・イーサリアム・ビットコインキャッシュ・モナコイン・ライトコイン・ネム利用者 現物保有状況(月次)」より抜粋

データからも、日本人に人気の暗号資産と言えるため12/17のSymbolローンチに向けて、今後も更に国内で活気を見せるかもしれません。

② BTC がゴールドと相関関係！？大きく動いたタイミングを分析！



BTCJPY4 時間足 当社取引ツールより作成

先週のビットコインの動きは 120 万円を割ることもありましたが、すぐに価格を押し戻し、強さを見せつける週となりました。そのような動きの中、ビットコインはコロナ禍に入ってからゴールドと相関した動きが多く確認されています。

例えば最近でも、8/26 に中国軍が中国本土から南シナ海に向かって中距離弾道ミサイルを 4 発発射しました。これは経済・軍事両面で圧力を強めるトランプ政権をけん制する意図があると報じられましたが、その際にゴールドの価格と、ビットコインの価格が共に上昇しました。これまでは『有事の金』と言われる程、有事の際にはゴールドが、株式投資のリスクヘッジとして択一的に買われていました。しかしながら昨今では、ビットコインも同時に選択される動きに変化しており、ミサイル発射後のビットコインは大きく上昇しました。

また、8/27 には米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長が期間平均で 2% のインフレ率を目指すことを表明しました。これにより、FRB の低金利政策が長期間にわたって継続するとの思惑から、この時もゴールドとビットコインは共に上昇しました。

これらの事実から、『コロナ禍に入ってからゴールドとビットコインは相関しやすくなっている』と言えるかもしれません。過去にも米中貿易摩擦の激化や、北朝鮮のミサイル発射の際はゴールド、ビットコイン共に上昇している事例もあったため、今後も軍事的な有事や、インフレを加速させるような政策には警戒が必要かもしれません。

③ まとめ



ネムが高騰したように、8月に入ってからアルトコイン全体の高騰が存在感をアピールしています。ドミナンスという暗号資産市場全体で各暗号資産がどのくらい時価総額を占めているかという指標では、1年前は70%近くを占めていたビットコインが、8月に入ってから50%台まで下落しています。このことから、アルトコインに資金が集まっていると分析することが出来るので、9月に入ってもアルトコインが賑わう相場が継続するかもしれません。

今週の記事は『**XRP 高騰に続き、XEM が16円突破！国内3倍銘柄誕生！？**』と、『**BTC がゴールドと相関関係！？大きく動いたタイミングを分析！**』の2点でした。

- ◆ 本資料においてお客様に提供される情報は、株式会社DMM Bitcoin が収集・作成等したものです。
 - ◆ 本資料は、一般的な情報提供を目的に作成されたものであり、暗号資産取引の勧誘を目的としたものではありません。
 - ◆ 本資料は、本資料作成時点で株式会社DMM Bitcoin が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
 - ◆ 本資料の情報によって生じたいかなる損害についても、株式会社DMM Bitcoin および本情報提供者は一切の責任を負いません。
 - ◆ 本資料のグラフ・データ等は、過去の実績または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
 - ◆ 本資料に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利は、株式会社DMM Bitcoin または権利者に帰属します。お客様は、本資料に表示されている情報をお客様自身のためにのみ利用するものとし、第三者への提供、再配信、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。
-
- 暗号資産（仮想通貨）は、日本円やドルなどのように国がその価値を保証している「法定通貨」ではありません。インターネット上でやりとりされる電子データです。
 - 暗号資産（仮想通貨）は、価格が変動することがあります。暗号資産（仮想通貨）の価格が急落し、損をする可能性があります。
 - 暗号資産交換業者は金融庁・財務局への登録が必要です。利用する際は登録を受けた事業者が金融庁・財務局のホームページで確認してください。
 - 暗号資産（仮想通貨）の取引を行う場合、事業者が金融庁・財務局から行政処分を受けているかを含め、取引内容やリスク（価格変動リスク、サイバーセキュリティリスク等）について、利用しようとする事業者から説明を受け、十分に理解するようにしてください。
 - 暗号資産（仮想通貨）や計画的なコインに関する関心が増えています。暗号資産（仮想通貨）の持つ課題性を利用したり、暗号資産（仮想通貨）交換業の導入に便乗したりする詐欺や悪質商売にご注意ください。
 - 暗号資産（仮想通貨）は、支払いを受ける側の同意がある場合に限り、その支払いに使用することができます。
 - 暗号資産（現物・レバレッジ）の取引手数料は無料です。レバレッジ取引は建玉を翌営業日まで持ち越すと、建玉金額の0.04%がレバレッジ手数料として発生します。
 - 暗号資産（現物・レバレッジ）取引は、暗号資産（仮想通貨）価格の変動により損失が生じる可能性があります。レバレッジ取引においては、預けた証拠金額を上回る取引が可能である一方、暗号資産（仮想通貨）の急激な価格変動等により、預けた証拠金額を上回る損失が生じる可能性があります。
 - 暗号資産（仮想通貨）レバレッジ取引に必要な証拠金は、各銘柄とも取引の額に対して25%以上となります。
 - 暗号資産（現物・レバレッジ）の価格はスプレッド（売値 (Bid) と買値 (Ask) の差) があります。
 - 上記のリスクは、お取引の典型的なリスクを示したものです。取引に際しては契約締結前交付書面等をよくお読みいただき、それら内容をご理解のうえ、お取引・出資の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。

商号：株式会社DMM Bitcoin

暗号資産交換業 関東財務局長 第00010号

第一種金融商品取引業 関東財務局長（金商） 第3189号

加入協会：一般社団法人日本暗号資産取引業協会